

# 山梨県作業療法士会ニュース



## やまなし

第96号 2017年11月22日(年3回発行)

### もくじ

- 1p 『「作業療法の日」開催・「アシストボックス事業」を通じて感じた事』  
地域リハビリテーション委員会  
4p 『キャラバンメイト活動とその活動支援について』 認知症対策推進委員会  
5p 『精神科デイケアの現状と課題、今後の展開』  
6p 『「ふれあい・つながり・遊ぼう会」の取り組み』 特別支援教育委員会  
7p 理事会だより 8p 各種申請書のおしらせ ・ 編集後記

### 「作業療法の日」開催・「アシスト・ボックス事業」を通して感じたこと

地域リハビリテーション委員会 海野、佐田、渡邊

みなさん、こんにちは。早速ですが、3択クイズです。

Q「作業療法の日」はいつでしょうか？

- ①6月29日 ②9月25日 ③10月27日

正解は・・・②9月25日です。

この日は国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院において日本作業療法士協会設立総会が開催された日です。会長含めて18名からなる日本作業療法士協会が誕生しました(ちなみに、6月29日は「理学療法士および作業療法士法」が成立した日(昭和40年)、10月27日は世界作業療法の日です)。

「作業療法の日」は、われわれ作業療法士(以下、OT)の仕事、広く地域社会に知ってもらうための啓発活動を積極的に進める日です。日々の業務を振り返ると、患者さんに提供している自助具は、障害のない方にも便利グッズとして、生活の一部に役立てることができます。また、認知症や鬱などへの関わり方は一般の方もその方法を知ることによって当事者の不安は和らぐと思います。OTの活躍の場は広いと感じます。是非、全会員で普及・啓発に努めたいところです。

この度、山梨県作業療法士会では9月17日(日)に甲府駅ペDESTリアンデッキ・南口で「作業療法の日」のイベントを開催しました。内容は①パンフレットやティッシュ配りでの作業療法の啓発、②困り事の相談(アシスト・ボックス活用)、③アンケート調査です。3連休の中日であいにくの雨模様でしたが、県立図書館へ行く途中・山登りからの帰り・買い物など多くの皆様に「作業療法」に触れて頂くことができました。

子供たちに大評判のバルーンアートは「作業を通して元気になる」を実感した場面でもあります。多

く笑顔と作業活動の楽しさが伝えられたと思います。また、アンケート回答者の中には、怪我により病院で作業療法を行ったが「本当に助かった。」と感謝の気持ちを述べ「今後もOTを応援する。」と力強い言葉を残してくれた方もいました。



こうした活動を通して、作業療法を知ってもらう機会は増えていると思います。しかし、地域での知名度は低いのが現状です。今後も継続した啓発活動が必要であると感じました。

さて、上記にも登場した「アシスト・ボックス」について紹介です。「アシスト・ボックス事業」として展開しようと考え中です。

私たちは、生活機能が低下した方々やその危険性がある方々に関わっています。そして、本人・家族のニーズに応える具体的かつきめ細かい支援を目指しています。彼らの「いきいきとした生活の創造」「やりたいことの実現」「困りごとの克服」などを一緒に考え、工夫して何とかしたいと考えています。

福祉用具には、①福祉機器②身体部位の損傷を補う補装具や不自由な日常生活動作をより便利により容易にできるように工夫された白助具③日常生活を円滑におこなうための日常生活用具④介護者などの負担を軽減する介助用補助具⑤機能の改善や維持を図ることを目的とした機能回復訓練機器などいろいろあります。福祉用具の選定・適合に関連して、ロー・テクノロジーとハイ・テクノロジーの両方に精通すること。福祉用具の適切な処方（選定・適合方法）を理解することが求められています。

昨年9月18日（日）に作業療法（士）が、地域における資源の一つとして活用できることを宣伝することを目的に「日本作業療法士協会設立50周年記念事業」を甲府駅（南口・北口）とペデストリアンデッキにおいて開催しました。実施内容は、①作業療法（士）紹介資料と記念品の配布②アンケート調査③展示④困りごと相談でした。

展示と困りごと相談の対応を意図して、福祉用具委員会に便利な日常生活用具（38品）とその使い方の説明を用意してもらいました。日常生活用具は、100円ショップやホームセンターで簡単に調達できる物や手作りの物です。トランクに収納し、「アシスト・ボックス」と名付けました。

「アシスト・ボックス」をその後の市民フォーラムでも活用しました。大勢の方々に興味を持ってもらえました。様々な相談もありました。学習会や作業療法講義でも使ってみました。「面白い。」など多くの感想がよせられました。入院中の方への作業療法や地域に暮らす方への作業療法でも使ってみました。今年は国際福祉機器展（HCR）でも作業療法のブースで展示紹介してきました。手応えを感じています。



「アシスト・ボックス」の管理は、地域リハ委員会となりました。地域リハ委員会には、地域リハや地域作業療法に関する啓発や実践的な活動を推進してきた歴史、団体の共益活動に留まらず公益活動に取り組んできた歴史があります。先輩たちの魂と実践を引き継ぐ者でありたいと思います。

#### 「山梨県作業療法士会アシスト・ボックス（事業）」の展望

実践を通じて頑張ったこと、当事者・家族の皆さん、関係者の皆さんから教えていただいたことを蓄積し、次の①実践につなげるシステムづくり②いろいろな福祉用具を使いこなすシステムづくり③福祉用具のいろいろな使い方を考えるシステムづくり④アシスト・ボックス物品を増やすシステムづくり⑤いろいろな材料や道具を揃え、いろいろな福祉用具を創りだすシステムづくりをしたいと考えています。

多くの皆さんの意見をいただき、「山梨県作業療法士会アシスト・ボックス（事業）」を展開し、山梨県作業療法士会として取り組まれるようにしたいと思います。

作業療法の日・HCR 双方で、まだまだOTは社会に知られていない存在であると痛烈に感じました。当時に理学療法士や言語聴覚士が様々な分野に進出している様子も目にしました。我々も強みや特性をもっと社会にアピールし、貢献する存在となる必要があるのではないのでしょうか？

一緒に頑張りましょう！



## 活動報告

### 『キャラバンメイト活動とその活動支援について』 認知症対策推進委員会

甲州デイサービスセンター 荻崎事業所 管理者 森 彰司

「キャラバンメイト」とは、認知症の人と家族の応援者である認知症サポーターを養成する役割を担う資格である。これは、全国キャラバンメイト連絡協議会が運営している、認知症サポーターキャラバンという活動の一環で、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指している。中でも、直接認知症に関する正しい知識を啓発する役割を担うキャラバンメイトは、認知症の方が暮らしやすいまちづくりに重要な役割を期待されている。現在、全国でキャラバンメイトは14万人、認知症サポーターは900万人を超え、山梨県でも多数のキャラバンメイトと認知症サポーターが養成されている。一方、講座受講後に実際活動しているキャラバンメイトは、約半数程度に留まっており、山梨県版オレンジプランでも、キャラバンメイトの活動の少なさが課題として挙がっている。このような実態の中で、私は作業療法士がキャラバンメイトを担う意味があると感じている。

私がキャラバンメイトになろうとしたきっかけは、「作業療法士」以外の活動の場を求めたからである。作業療法士として、病院や施設で認知症の方に関わることは多く、そのご家族に認知症に関する知識をお伝えする機会は業務内で経験していた。しかし、認知症の方の支援はご家族だけでは限界があることが多い。そんなとき、地域包括ケアシステムでも言われている互助の力が必要となる。一作業療法士として、対象者の住む地域の住民向けに直接話をするには高いハードルがあった。そこで、キャラバンメイトという公的な立場で話をする機会を作れば良いのではないかと考えた。実際、キャラバンメイト取得後に通所リハで担当していた利用者様の住む地域住民対象に、認知症サポーター養成講座を開き、一般知識とともに、利用者様の特徴や関わる際の注意点などを伝えることができた。私は、この実践に作業療法士がキャラバンメイトを担う意味が隠れていると考える。作業療法士は、認知症の一般的な知識を伝える際、対象者の状況やニーズに合わせて、内容や伝え方を工夫することができる。さらに、利用者を取り巻く環境や周辺住民などを含む、生活全般を見る力を持っているため、地域づくりに目を向けやすいと考える。

活動開始後は、県や市町村、居宅介護支援事業所などから依頼を受け、講座開催の機会を頂き、キャラバンメイト連絡会などでは活動状況を伝達する機会も得ることができた。当然、一人で活動しても活性化にはならないため、活動経験がないキャラバンメイトの相談支援や県士会の認知症対策推進委員会のメンバーとも活性化を図り、講座依頼は増え続けている。

キャラバンメイトの活性化に関しての新たな挑戦として、活動場所を自分たちで作る取り組みも始めている。その一つが、認知症対策推進委員会で主催している認知症スタンプラリーである。昨年、今年と地域のキャラバンメイトとともに、スタンプラリーのブースで認知症の啓発に努めた。さらに今後は、スタンプラリーのノウハウを持って、地域で既に行っているお祭りやイベントで、その地域のキャラバンメイトとともにブースを持ち、認知症啓発の機会を作る取り組みを始めた。まだ歩み始めたばかりだが、可能性の広がる取り組みになるよう努めていきたい。

最近では、認知症カフェなどが各地域で立ち上がり、キャラバンメイトや認知症サポーターの活動も活性化されつつある。作業療法士も、地域住民の一人として、認知症の方が住みやすいまちづくりの一端を担えると良い。作業療法士という殻に閉じこもらず、作業療法士の知識を持ったキャラバンメイトや色々な姿で幅広く活躍できる可能性があると考えられる。



認知症スタンプラリー大会で活躍するキャラバンメイト (H29.10.15)

## 精神科デイケアの現状

### 『精神科デイケアの現状と課題、今後の展開』

社会医療法人 加納岩 日下部記念病院  
診療部 外来課  
作業療法士 三枝 広平

精神障がいのある人の支援は「入院医療中心から地域生活中心へ」と精神保健医療福祉サービスの転換という国の基本方針に基づいて、病院から地域へと移行しつつあります。

今回、精神科デイケア(以下 DC)の現状について簡単ではありますが、ご紹介させていただきます。

定期的な運動の実施は、精神症状の安定にも十分な効果があることが示唆されていますが、プログラムの現状として、DC を対象とした調査では、調理、手芸、カラオケ、卓球、園芸、トランプ・ウノなどの活動が上位を占める結果が出ており、これらの活動参加による治療効果も得られますが、運動プログラムの実施頻度の低さが伺えます。また、プログラムの定期的な見直しを実施している所は 40%未満に留まっているという報告もあります。DC では、利用者層や様々な疾患の対象者が混在する中で、目的も多様化(余暇的利用の方、日常生活訓練を受ける方、就労支援を受ける方等)してきています。しかしながら、『マンパワー不足』という現場が多く、スタッフの人員が実践に与える影響は大きいと考えられます。

当院では、定期的な運動プログラムへの参加が出来るよう、これまで実施していた卓球やソフトバレー、バドミントン、フットサルなどに加えて、昨年度よりサイクリングやフィットネス、体力測定などを追加しました。結果として、これまで運動への参加が全くなかった方の継続参加、症状の安定、減量の効果も見られるようになってきました。それに関連づけ、栄養指導などによる健康に関する意識付けも高める事ができるようになってきたと思われま

す。精神障がい者の就労においては、就業半年後の継続率が 50%程度と言われていますが、当院では就労プログラムの見直しや、SST、職業見学・訓練、個々の関わり(面談等)を増やした事などにより、就労者数の増加に繋がったり、昨年度から半年未満での中断者がいなかったりと効果が表われてきたと思われま

す。障がい者雇用において、現状として精神障がい者の雇用義務はありませんが、H30 年 4 月より精神障がい者の雇用が義務づけられる事や、雇用率が引き上げとなること、精神障がい者の就労に対する動きが見られつつあります。

DC が今後、地域医療の中でより有効に機能するためには、多様な利用形態にある DC の機能を、症状やニーズに応じて機能を強化・分化していくことが求められると考えられます。また、多職種連携が DC では重要であり、対象者の定期的な評価はもちろん、専門性を活かし作業療法士がプログラムの定期的な見直しを実施し、多様化するニーズに応えていけるよう働きかけを行って行きたいと考えます。



※県のスポーツ大会でいただいた賞状

## ふれあい・つながり・遊ぼう会

### 『みんなあつまれ～ このゆび、と一まれ！』 特別支援教育委員会「ふれあい・つながり・遊ぼう会」のとりくみ

巨摩共立病院 平松洋子

県士会「特別支援教育委員会」の中で活動する「地域でのつながり作りグループ」では、年2回、小学生や中学生のグループ活動を行っています。

発達障害の分野では、今、社会性の発達に課題を持つお子さんの依頼が非常に多くなっています。そのほとんどが自閉症スペクトラム障害（ASD）の子どもたち。興味関心の偏りや感覚の過敏さから、みんなと一緒に活動ができずに集団から外れてしまったり、すぐに感情を爆発させてしまったり、適切に自分の気持ちを表現できずに「暴言」を吐いたり、関わりたいのに上手くできず失敗体験を重ねて疎外感を味わったり、被害的になったり・・・。

こうした特性を持つ患者さんが、精神科領域にも存在することは、委員会の共通認識になっています。また、働き続けられなくなり職を失い貧困に直結、家族的に問題が重層化している場合や、key personとなる家族にこうした特性があって話が通じにくい例、良く社会に適応してきた方が老年期、認知症になって元来の特性が顕在化する例などもあり、ASDについては、すべての分野のOTが知って、それに気づき、対応できる力を持っているといいなあと思っています。

社会性の発達を支援するには、社会的な場、集団が必要です。それも、自由度があって、少々の逸脱や失敗も許されながら安心して自分を出せて、楽しいからみんなと一緒にやりたくなる場。そんな場になる様に、今までに小学生は遊びと簡単な工作を5回、中学生は調理活動を中心に3回実施、家族を含め延べ105人が参加しています。お友達のスピードにちゃんと合わせて風船を丁寧に運ぶ小学生の姿や、上手いかわない時に「ちょっと減らして・・・。」など問題解決し、「これやるから、これやって。」と協力しながら作業を進めている中学生の姿など、きらりと輝く素敵な場面にたくさん出会えています。

7月に実施した会では、遊びの時には外れていてもピュンピュンゴマ作りですっとみんなの中に入ってきたお子さんもいたり、休憩時間にみんなで自然に遊び始める子どもの姿が見られたり。そんな様子を親御さんは次のようにアンケートに記載していました。「学校ではやらないと怒られたりするが、しぼりのない会だったので息子も居心地がよかったのでは。今日の会は息子が楽しそうに自由にしていて、ありのままの息子を受け入れてくれてありがとうございます。」「学校ではなかなかみんなの中に入れませんが、今日はすごく楽しそうでした。自分を思い切り出せている感じだった。」親同士語り合い、「同じ悩みを持つお母さんと話ができよかった。自分だけではないと励まされた。」と涙する姿もありました。

ボランティアで参加された日頃他分野で働く皆さんの感想をご紹介します。「一番に感じたことは、みんな楽しそうで笑顔が沢山。私自身も、楽しい時間を過ごすことができました。」「精神科の分野でも、発達障害を持つ成人の方、さらに妄想性障害やうつ病を併発された方などお会いする機会も多く、特性を知りより良い援助をする為の学ぶ機会となっています。職場で目にし、疑問に思っていた患者さんの不可解な行動の理由も知ることができました。一緒に体を動かしたり物づくりをすることで気持ちの距離も近づき、お子さんがとても可愛いです!」「2回目に参加した時、“他の子を待つ”“自分から話しかける”など初回と違った行動が見られたお子さんがいて『子どもの社会的行動』に気が付きました。(次はちょっと声かけを変えてみよう)と思え、私自身も成長できました。」

分野を問わず、興味のある方はぜひお休みの半日または1日を、スタッフとして子どもたちと一緒にすごしてみませんか?お待ちしております。



理事会だより

一般社団法人山梨県作業療法士会  
2016年度 第10回 理事会議事録

日 時：平成29年2月14日(火)  
会 場：甲府城南病院 作業療法室  
出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、野上、中島、濱田、米山、  
磯野、関谷、佐尾、宮尾、有泉：14名

1. 副会長(廣田、古屋)

1)平成29年1月28日(土)・29日(日) 都道府県作業療法士会連絡協議会  
に廣田副会長が出席

2. 事務局(三瀬)

<管理部>

1)甲州市老人クラブ連合会より、甲州市老人クラブ介護予防学習会講師  
派遣依頼を受託 → 認知症対策推進委員会が担当  
2)会員数547名(平成29年2月14日現在) 退会1名、復会1名

3. 社会局(濱田)

<事業部>

1)広報用展示パネル、のぼり旗、パンフレットの保管は事務局(甲府城南  
病院)で保管する

4. 学術局(佐尾、宮尾)

<学術大会運営部>

1)査読者の選考基準について、基礎研修終了を含めるか検討  
→ 基礎研修終了者の項目は外す

5. 特設委員会(松田、関谷、磯野)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1)平成29年2月11日(土)・12日(日)生活行為向上マネジメント指導者  
研修に古屋副会長、米山理事が参加

<認知症対策推進委員会>

- 1)北杜市認知症講座にて宮尾理事、弦間将太(甲府城南病院)、浅川愛(山  
梨リハビリテーション病院)が講師を行った
- 2)シルバー人材センター認知症サポート養成講座を開催  
会 場：甲府  
講 師：片田勇太郎(甲州ケアホーム)、牧野有希(日下部記念病院)  
参加者：63名  
会 場：富士東部  
講 師：浅川愛(山梨リハビリテーション病院)  
参加者：25名

一般社団法人山梨県作業療法士会  
2016年度 第11回 理事会議事録

日 時：平成29年3月16日(木)  
会 場：甲府城南病院 作業療法室  
出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、長坂、野上、中島、米山、関谷、  
松田、磯野、有泉、佐尾、宮尾、原：15名

1. 会長(山本)

- 1)平成29年3月8日(水)山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、  
山梨県言語聴覚士会の3士会合同意見交換会に廣田副会長、古屋副会  
長、三瀬事務局長、磯野理事と出席
- 2)平成29年3月10日(金)健康科学大学卒業席に出席

2. 事務局(三瀬)

- 1)平成29年2月26日(日)(一社)日本作業療法士協会主催の介護予防・  
日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会へ丸山暁(甲府城南病  
院)と参加
- 2)平成29年2月22日(水)甲府市在宅医療介護連携代表者会議に代理  
出席
- 3)平成29年3月8日(水)第2回中北地域リハビリテーション連絡会に  
出席

3. 常設委員会(松田、関谷)

<倫理委員会>

テーマ：医の倫理～誰を信じて働くか～

日 時：平成29年3月1日(水)

会 場：大木記念ホール

講 師：大河原昌夫(住吉病院 副院長 精神科医)

参加者：53名

4. 特設委員会(松田、米山、磯野)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

1)生活行為申し送り表による効果の調査を(一社)日本作業療法士協会へ  
提出

<認知症対策推進委員会>

2)シルバー人材センターにて認知症サポーター養成講座を開催

5. その他

1)地域支援の研修会や自動車運転など(一社)日本作業療法士協会と連携  
を必要とする事業に対応する組織として、協会事業推進委員会の設置  
を検討 → 承認

一般社団法人山梨県作業療法士会  
2017年度 第1回 理事会議事録

日 時：平成29年5月9日(火)  
会 場：甲府城南病院 作業療法室  
出席者：廣田、古屋、三瀬、長坂、磯野、松田、関谷、宮尾、佐尾、  
米山、野上、中島、濱田、有泉：14名

1. 会長(山本)

1)平成29年4月3日(月)健康科学大学入学式に出席

2. 副会長(廣田・古屋)

1)平成29年4月22日(土)・23日(日) 都道府県作業療法士会連絡協議会  
に古屋副会長が出席

3. 事務局(三瀬)

1)訪問リハビリテーション振興会より第8回訪問リハビリリーダー会議  
及び訪問リハビリテーションフォーラム運営委員会依頼受託  
→ 前田哲(甲州ケア・ホーム)を推薦

<管理部>

- 1)会員数521名(平成29年5月9日現在)新規入会4名
- 2)平成29年度士会会員管理について、(一社)日本作業療法士協会退会者  
への対応を検討 → 通知を送付する

## 一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付（下記参照）し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。

### 一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

#### 入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功労のあったもの又は学識経験者  
※いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

#### 会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送または FAX にてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きますようお願いいたします。



#### 連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部  
〒400-0831 山梨県甲府市上町 753-1  
甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内  
FAX：055-241-8660（代）  
TEL：055-241-5811（代）



#### 編集後記

寒くなりました。今年こそは格闘を揃さない様に気を付けていきます。(つ)

スマホにはケースを揃けないでです。先日、機種変更をして空気に落としました。割れました。ケースを購入しようと思います。(い)

寒くなると、どうしても朝が寝きれません。またこたつからも出られません。今年こそ、しっかり生活したいと思います。(み)

あまりの寒さにこたつを出しました。家では猫ではなく、犬が中で丸くなっています。(浅)

数年前に精神科の中で焦った“リカバリー”という考え方・取り組みが、つくづく良いなあと思う今日このごろです。(い)

柿食えば〜 今年お花摘み出来るかな?? (内)

発行人：山本 伸一

編集人：中島 雅人・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・桐原 由加里・奥川 良太・霧生 智規・三森 友樹・稲葉 峻太

行先：いらすとや

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報部 企画編集部

竜王リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション事業所 〒400-0114 山梨県甲斐市万才 287 TEL 055-276-1155

FAX 055-279-1262

印刷所：(株)島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1534 TEL 055-233-8829